

いま中学生が訴えたいこと

青少年の非行の芽をつみ、心豊かでたくましい青少年を育てるためには、何よりも健全な家庭環境が大切です。

6月27日に文化センターで「東浦町非行防止と青少年健全育成町民大会」が開催され、青少年対策の重点目標や事業計画の発表が行われました。また「いま、中学生が訴えたいこと」をテーマにした中学生の意見発表もありました。発表された中学生の意見を紹介します。

●問い合わせ 生涯学習課(文化センター内) ☎83-9567



「人種差別」

東浦中学校 3年
羽田野 圭那さん

「生まれた所や皮膚や目の色で、一体この僕の何が分かるというのだろう」これは私が聞いた「青空」という曲の歌詞の一部です。この歌詞がとても心に残り、頭から離れなくなりまして。私がこの曲を聴いた理由は、好きな歌手がカバーして歌っていたからです。しかし、この曲は私が人種差別について考えるきっかけになりました。

私はマンションに住んでいますが、そこにはたくさん外国人もいます。肌の色が黒い人もいれば、私たちと同じように見え

て話している言葉が全然違う人もいます。私は、何を言っているか分からない、物事に対する考え方も違うかもしれない、少し怖いな、と思っていました。でも、それは勝手な思い込みで、本当は違いました。その人たちは、エレベーターやロビーで言えば片言の日本語であいさつなどをしてくれれます。私がエレベーターに乗り遅れそうになったとき、ボタンを押して待っていてくれます。こうやって違う国の人同士でも見た目や言葉なんて関係なく、一つの空間で普通に過ごせることを、実際に体験して感じる事ができました。

私たちが人間は、私のように人を見た目で判断してしまうことがあると思います。例えば、眼鏡をしている人は頭が良さそうとか、派手な格好をしている人は怖そうなど、「この人はこんな人」と自分の中で決めつけてしまうことは誰にでもあると思います。同じように肌や目、髪の色、生まれた国が違うというだけで、自分がその人のことを分かったかのように思ってしまうのはよくないと思います。私のように、実際に話してみたり仲良くなったりすると、思い

込みだったと気付くことができずともかもしれません。もちろん育った環境が違うのだから、考え方が違うのは当然だと思えます。でも、日本人でもそれぞれ考え方が違うように、世界中の人、一人一人が違う考えをもっていることをみんなが理解し、意識することができたら、きっと平和な社会になると思います。

もう一つ、私が人種差別について考えるきっかけとなったことがありました。それは、ももいろクローバーZというグループが顔を真っ黒に塗った状態で番組で歌を披露し、そのことがネットで話題になったことでした。私は、どこがいけないのだろう、と疑問に思いました。調べてみると、そのグループは昔の黒人の歌手を再現しようとしていたそうですが、ニューヨークの記者がその映像を見て、「なぜ日本で人種差別についての議論が必要なのか」を示す例としてこの映像を引用し、ネットに上げたのが理由でした。それを見た外国人の多くは「故意ではない人種差別は大きな問題」「黒人差別だ」と非難しました。しかし、日本人の反応は「人種差別の意図はなく、敬意や憧れを表している」など、そこまで批判的な意見はなかったそうです。私自身この記事を見て、そこまです非難しなくてもいいのに、と思ったのと同時に、なぜ日本人と外国人とで人種差別に対する考えにこんなにも違いがあるのかと疑問に感じました。でもそれは、学校で歴史の授業を受けていて少しずつ分かってきました。昔、黒人の方たちは違う人種の方たちから差別を受けてきました。外国には黒人、白人だけでなく、さまざまな人種の方たちが共に生活しています。それに比べて日本人は「人種差別」に敏感ではないし、意識が高くないのだと思います。もっと外国の人種差別の歴史を知り、その思いを理解することが大切だと思いました。

一人一人違う考えをもっている当然、世界中のみんなが平等である、ということ、私のように歌などをきっかけにして考えてもらいたいし、それが当たり前のこととして共生できる社会になってほしいです。そしていつか「人種差別」という言葉がこの世界からなくなることを心から願っています。



「私にとって 大切なこと」

北部中学校 3年
おおもり はな
大森 巴奈さん

人が社会の中で生活していく上で重要なことは何でしょうか。他の人よりも能力が高いことや上の立場でいること、裕福であることなど、思いつくことはたくさんありますが、私は「支えてくれている人の存在を知り、感謝すること」だと思えます。私がそう考えたのは母に励まされたことがきっかけでした。

私の兄は障がいを抱えており、大きな声で歌いながら歩いたり、独り言を言いながら歩いたりすることがあります。人が多い場所でもついつい大きな声を出してしまうので、周りの人たちはよく一緒にいる私たちや兄の方を見てきます。私は、以前からその目がとても嫌でした。

ある日、私は母に、「お兄ちゃんが皆の前で大きな声を出してしまっただけ、皆に見られて嫌じゃないの？私は、あの目が見ても気になるんだけど。」と尋ねてみました。すると母は、「もちろん皆に見られることは気になるけど、見る人たちはきっとビックリしてこっちを見るんだよ。巴奈ちゃんだって歩いているときに大きな声を出している人がいたらビックリしてその人の方を見るでしょ。だから気にしないでいいと思うよ。でもまだ嫌な思いをすることがあったらいつでも話してね。」と言いました。いつも気にしていないうちに見える母でもやっぱり気にしてはいたのだなと思って「ホッ」としました。また、母に励まされたことで、今まで感じていたモヤモヤが一気になくなりました。今では、周りの目なんて気にせず、今まで以上に楽しく家族で出かけています。

私は、母の言葉に本当に支えられました。今でも兄のことでたまに嫌な思いをすることもありますが、母の言葉を思い出して、「まあ、しょうがないかな。」と思えるようになりました。もし、あの時の母の励ましがなかったら、私は今でも周りの目を気にしながら生活していたと思います。恥ずかしくてなかなか言えませんが、いつか必ず母に「ありがとう」と伝えたいです。私は今、辛いときには必ず励ましてくれる家族、共に高め合っていく仲間、優しくしてくれる先生、すれ違ふときにあいさつしてくれる地域の方々を支えられて生活しています。最近では、支えてもらったなと感じたときは、必ず「ありがとう」と言うようにしています。そしてこれからは、今まで支えてくれたたくさんの人を私が支えることで恩返しをしていきたいと考えています。例えば、家事をする母の手伝いを今まで以上に積極的にしたり、困っている友達を見かけたら声をかけたり、地域の人に自分から進んであいさつをしたりすることなどです。

皆さんも一度、自分を支えてくれている人について考えてみてください。家族や友人、仕事の仲間など、数え切れないほどいるはずです。そして、今度は皆さんがその人たちを支えることで、恩返しをしてみてください。「ありがとう」という感謝の一言でも、相手にとっては必ず支えになるはずです。

私は、お互いにお互いを支え合いながら生活していく地域社会にしていきたいことが大切だと考えています。たとえば、電車で立っている妊婦さんや高齢者、身体の不自由な方に席を譲るなどといった、弱者を支えていくこと。いつも何かをしてもらっている人に対して、ときには自分がその人の助けになることをしてみる。誰でもできるよいうちなちよとしたことの積み重ねが、社会全体を支えていくことにつながるっていくのではないのでしょうか。そのために、まずは自分の周りで、支えてくれている人の存在を大切に、感謝しながら毎日を過ごすことが大切だと思います。私は、これが社会を変えていく第一歩だと信じています。

平成27年度

社会を 明るくする運動 優秀作品

優秀作品に選ばれたポスターと習字が
会場に展示され、表彰式が行われました。

(敬称略)

学校名	ポスター		習字	
	5年	6年	5年	6年
森岡小	みずの ゆめ 水野 由萌	みずの りょうや 良哉	く野 みさき 美咲	いしはら りか 石原 梨香
緒川小	—	にのみや みつき 二宮 充生	さかい りん 酒井 凜	はせがわ そら 長谷川 空良
卯ノ里小	がなもり だいま 金森 大輝	のむら りゅうせい 野村 龍聖	こんどう ゆな 近藤 優名	にし 希らら 西 希良々
片葩小	—	ながの ひろき 長野 宏希	こばやし りこ 小林 璃子	おおたに りお 大谷 莉央
石浜西小	—	—	はな井 もえ 花井 萌	たなか ゆうな 田中 悠菜
生路小	—	—	ながさか あや 長坂 晏弥	いながき まゆ 稲垣 茉優
藤江小	とみた さくら 富田 さくら	あだち まなか 安達 愛華	たけうち さら 竹内 紗良	ながた こうすけ 長田 昂将



「手紙」

西部中学校 3年
 たなか ちなか
 田中 千夏さん

「最近手紙を書いたのはいつですか。」そう聞かれても答えられない人が多いのではないのでしょうか。現在日本では、携帯電話の普及率がどんどん上がっています。今では国民の五十パーセント、約二人に一人が所持しているという状況です。そんな今、私たちの連絡手段はほぼ携帯電話で行われていると言っても過言ではないのではないのでしょうか。

携帯電話はとても便利なものです。しかし携帯電話が普及し

始めたのは、約二十年前です。では、それまでの連絡手段は何だったのでしょうか。それは手紙です。手紙は伝えたいことを自分の手で文字に起こします。従ってとても時間がかかりました。しかし、手紙を書くことはとてもよいことだと思います。

以前このような経験をしました。私は、四年間続けていた習い事がありましたが、辞めることになりました。四年間ずっと一緒に頑張ってきた友達と別れることになりました。とても悲しい気持ちになりました。そこで私はともに頑張ったり励まし合ったりしてお世話になった友達に、感謝の気持ちを伝えることにしました。その友達の電話番号を知っていたので電話で気持ちを伝えてもよかったです。あえて手紙で伝えることにしました。手紙は電話と違って時間がかかり、正直面倒です。それでも私は手紙を選びました。なぜなら、自分自身が、電話よりも手紙をもらった方が嬉しいからです。実際、手紙を書き始めようとして紙に向かってみると、どんどん書きたいことが思い浮かび、書いている間とても懐かしく楽しい気持ちになりました。そして、その手紙をポストに投函し、次の日から毎日毎日わくわくしながら返事を待ち続けました。

ある日、学校から帰ってポストを見てみると、そこには今か今かと待ち続けていた私への手紙が一通届いていました。その時とても嬉しかったのを今でもはっきりと覚えています。もらった手紙にはたかさんの思い出が詰まっており、読んでいるととても楽しい気持ちになりました。それは今でも何回も読み直してしまう程です。手紙を介してその友達とは現在もつながりがあり、私にとってとても大切な存在となっています。

「手紙は人を幸せにします。」私はこの経験から身を以て知ることができました。もし、自分が手紙ではなく電話を選んでいたら、その友達とはどうなっていたのでしょうか。もしかしたら一回限りの電話で終わってしまったかもしれません。

携帯電話が普及してきたら、手紙を書くという機会は減ってきていると思います。でも、一度でよいから手紙を書いてみてください。手紙は相手とじっくり向き合うことができます。封を開けたときの相手の表情や姿を思い浮かべてじっくりと言葉を選ぶことができます。面と向かっては言いづらいことも手紙は伝えてくれます。形に残しておきたい言葉を残してください。そして残すことで何回も読み味わうことができます。今、世界はどんどん便利になってきています。伝えたいことがあるれば、ボタン一つですぐ伝えることができちゃう世の中になりました。だからこそ私たちは手紙を書くことの楽しさ、相手を思って言葉を考えることの大切さを忘れてはいけないのだと思います。

